

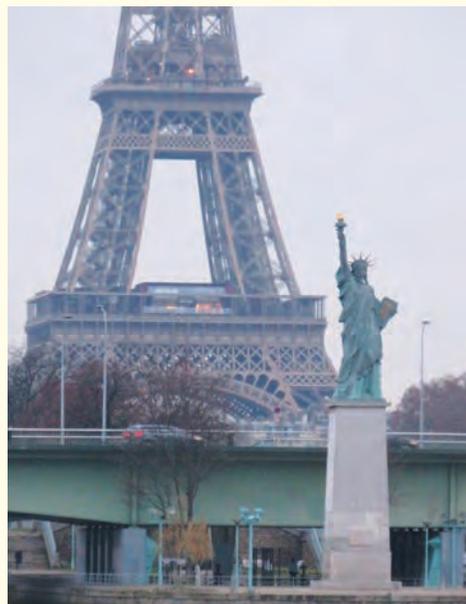


from Paris

フレンチ・ドリーム

「アメリカン・ドリーム」という言葉は、良く知られています。生まれや育ちに関わりなく、誰でも、才能や努力次第で、栄誉や富をつかむチャンスがあることを表す言葉です。「フレンチ・ドリーム」という言葉も時折目にしますが、多くの場合、ある程度の財産を持った人がフランスに移住して、洗練された家具や絵画、おいしい食事に囲まれ、優雅な暮らしを送ることを意味するようです。

もちろん「アメリカン・ドリーム」に似た世界もあります。私自身がそれを感じるのはサッカーです。フランスには、旧フランス領を中心に多くのアフリカ系の人々が、サッカーを通じて成功を収めることを夢見て暮らしています。実際、2000年前後にはジダンというアルジェリア系の選手が大活躍してスーパースターとなりましたし、現在のフランス代表には、ポグバというギニア系の選手をはじめ、何人ものアフリカ系の選手が名を連ねています。私の息子が所属するサッカークラブでも、多くのアフリ



アメリカから返礼として寄贈された自由の女神像

カ系の子供たちがプレーし、ゴールを決めるたびにポグバ選手のまねをしています。

ただ、フランスはアメリカに比べ、伝統や文化に対するこだわりが強く、階層意識と批判的精神も根強いいため、こうした意味での「フレンチ・ドリーム」の実現は、容易ではないようです。近年は、失業率の高止まりやテロの発生も影響し、移民に対する反感が強まっているのでなおさらです。

「アメリカン・ドリーム」の象徴とされるニューヨークの自由の女神像は、フランスから贈呈されたものです。そして、パリのセーヌ川にかかる橋のもとには、少し小さめですが、やはり自由の女神像が立っています。この国で、多くの「フレンチ・ドリーム」が実現することを願っています。

(経済協力開発機構、本部：パリ)

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



毎週土曜日は試合の日。クラブの月謝は安く、ユニフォームも安価で支給されます



ポグバ選手がゴールを決めた後にとる「ダブ」というポーズ。世界的に流行しました